

2014年産カリフォルニア・プルーン開花状況



1～2月は暖冬で早咲き傾向、開花中も好天で高温続き

現地からの報告では2014年産カリフォルニア・プルーンは3月12日頃から開花が始まり、21日には満開という例年より若干早い開花となりました。

今冬は寒波によって12月は例年より低温でしたが、1～2月と暖冬であった事が早咲きの原因であると思われます。なお開花中も好天と高温が続き、ハチによる受粉活動時間については問題ありませんでしたが、開花中の高温がどれだけ着果に影響を与えたのかは、もう少し経過を観察する必要があります。



現地の開花の様子

2014年産の収穫量につきましては、6月初旬のカリフォルニア農業統計局(CASS)の収穫予想を待つ状況ですが、2013年産の大減産により来季への繰り越し在庫はほとんど発生しない見込みで、来季の総供給量につきましては、今季に続き予断を許さない状況になると考えられます。

更に、プルーンの作付面積(ペアリングエーカー)の減少は深刻で、2013年産は前年比7%減となる5万1,000エーカーとなりました。今季に入っても減少傾向は収まらず、収益性の高いワルミヤビスタチオなど他の農産物への転作が進んだ事から、2014年産は1割以上減となる4万5,000エーカー程になるとの予想も有り、これに10年間のエーカー当たりの平均収穫量をかけても10万ショートトンには届かないため、今後とも安定供給が懸念されます。

また、南米もプルーンの収穫時期を迎えています。チリ産プルーンの収穫予想量は7万～7万5,000メトリックトンとなり、2013年産の5万メトリックトンから約45～50%の増産の見込みですが、アルゼンチン産プルーンは霜と降雨の影響により、収穫予想量は1万～1万5,000メトリックトンとなり、13年産の2万5,000メトリックトンから約40～60%減産の見込みです。

過去10年のカリフォルニア・プルーン、作付面積・収穫量の推移

カリフォルニア・プルーン収穫年	作付面積		収穫量(ショートトン)	収穫量/エーカー
	ペアリングエーカー	ノン・ペアリングエーカー		
2004	70,000	0	49,000	0.70
2005	67,000	7,500	97,000	1.45
2006	65,000	7,500	198,000	3.05
2007	64,000	7,500	83,000	1.30
2008	64,000	0	129,000	2.01
2009	64,000	0	166,000	2.59
2010	61,000	0	130,000	2.13
2011	58,000	0	137,000	2.36
2012	55,000	0	138,000	2.51
2013	51,000	0	86,000	1.68
2014予測	45,000	0	89,010	※過去10年間の1エーカー 当たりの収穫量平均値 1.978
需要予測			135,000	
増減			66%	